



Habari ya Kenya

☆JICA 海外協力隊 ケニア通信 No.3☆ 2026年8月17日 発行者:夏目佳代子

Habari gani? (ハバリ ガニ?) お元気ですか? 8月とは思えない気候のナイロビ。朝は20度前後、晴れていると昼間は30度ぐらいまで上がりますが、曇りの日は1日を通して20度前後です。とても過ごしやすいですが、今は大乾季にあたる時期なので、ケニアに来てからまだ一度も雨が降っていません!! 道路沿いの木々も、葉っぱがうっすら砂をかぶっている感じです・・・と、ここまで書き終えた数日後、雨が降りました! ケニアに来て20日目です。木々もほこりが洗い流されて緑が戻ってきました。道端で、雨水を使って車やバイクを洗う人たちをたくさん見かけました。

☆チームケニアです!

ケニアには現在、36人の海外協力隊員がいます。2026年度1次隊は、私を入れて7人、職種はコミュニティ開発、小学校教育、交通安全、農業協同組合、環境教育(2人)、青少年活動(私)です。そして、ヨルダンから任国振替になった幼児教育隊員も一緒に現地訓練を受けています。みんなとは日本での訓練中、一度だけ二本松訓練所で会ったきりで、出発日に成田空港で集合。馴染めるか心配でしたが、すぐに仲良くなりました。それぞれ出身も、これまでの経験も、日本での職業も違いますが、いつもいろんな話をして盛り上がります。スワヒリ語の授業が終わった後、一緒に勉強したり、滞っているホテルの部屋にキッチンがあるので、夕食を一緒に作ったりしています。私はいろんなアプリがまだまだ使いこなせず質問してばかりですが、みんないつも親切に教えてくれて感謝です。



☆チームケニアのみんな

☆スワヒリ語の授業が始まりました

ナイロビでは、オフィスで働く人、お店やウーバーの運転手さんもたいてい英語が通じます。ですが、ケニア人同士の会話を聞いていると、スワヒリ語で話していることがほとんどです。現地訓練の一つとしてスワヒリ語の授業があります。1日4時間の授業で、5日間を2セット。授業は4人ずつに分かれて行われ、私たちのクラスを担当するのはナンシー先生です。授業は英語で進められます。集中講義のことを「Intensive」と言いますが、私たちのクラスは「Accelerated」です。「加速」という意味ですが、その名の通り授業はすごいスピードで進んでいきます!! 簡単な説明の後、すぐに当てられてどんどん質問されるので「ちょっと待ってー!」という感じです。



☆ナンシー先生

スワヒリ語でおもしろいな~と思うのはこんな点です!

その1 日本語のオノマトペみたい

pilipili (ピリピリ) はどんな意味でしょうか? これは「とうがらし、香辛料」という意味です。日本語でも、辛いものを食べると「ピリピリする」と言うので、よく似ていますね。これはすぐに覚えられました。そしてピーマンやパプリカは、pilipili hoho (ピリピリ ホホ) と言います。スワヒリ語には、同じ音や単語を2回繰り返す、日本語のオノマトペのような表現がいくつもあります。

例えば、pikipiki (ピキピキ) = バイク、barabada (バラバラ) = 道

chapchap (チャプチャプ) = 急いで、polepole (ポレポレ) = ゆっくりと など

sawa sawa (サワ サワ) = いいですよ。了解。OK!

Sawa. だけでも「いいよ。」なのですが、Sawa sawa!だと「いいよ、いいよ!」という感じです。



☆授業風景

混乱するのは、家族の言い方です。お父さん=baba（おばあちゃんみたい）、お兄ちゃん=kaka（お母さんみたい）、妹=dada（英語でお父さん“dad”みたい）、おじいちゃん=babu（赤ちゃん?!）おばあちゃん=nyanya（ネコ?!）です。お母さんはなんと言うのでしょうか？ これは mama でした！そして、なんとトマトも nyanya です！ナンシー先生に理由を聞いてみましたが、「そうやって言う。」との回答でした。 ※（ ）は私の心の声です。タンザニアでは、おばあちゃん=bibi だそうです。

その2 Nで始まる?!

スワヒリ語には、N(ン)で始まる単語がいくつもあります。まず朝のあいさつ。「Habari ya asubuhi?（ハバリ ヤ アスブヒ?）」と聞かれたら、「Nzuri.（ンズリ）」もしくは「Njema.（ンジェマ）」と答えます。これは「Good.」という意味です。「Yes.」もNで始まり、「Ndiyo.（ンディヨ）」と言います。他にも、ndizi（ンディジ）=バナナ、nguo（ングオ）=服、nnne（ンネ）=数字の4、などなど。スワヒリ語だと、しりとりは永遠に続きそうです～

スーパーの店員やウーバーの運転手にスワヒリ語で話しかけると、みんな最初驚いた表情になりますが、「スワヒリ語話せるのか?!」ととても喜んで答えてくれます。中には、いろんな表現を教えてくれる人もいます。車内の車検シールなどもそのままの日本車の中で、東京駅辺りのナビの地図を目にしながら、ケニアの人とスワヒリ語で会話をしているのはなんだか不思議な気分ですが、実際に伝わるととてもうれしいです。



☆ほとんどのナビの矢印は東京駅で止まったまま・・・

☆日本大使館へ表敬訪問

JICA ケニア事務所の近くに在ケニア日本大使館があります。協力隊の活動を終えて帰任する隊員と一緒に、松浦大使を表敬訪問しました。非常にセキュリティが厳しいので、貴重品やスマホも持ち込めず、持ち物はIDカードのみです。大使に一人ずつ挨拶と活動の抱負をお伝えし、大使からは「ケニアの人たちを感動させられるような活動を、ぜひ行ってください。」と激励の言葉をいただきました。表敬訪問の様子は JICA Kenya の facebook で見ることができます。私は目をつぶりかけていました…



☆これから大使館に向かいます

<https://www.facebook.com/share/p/1A1Go6FcRt/?mibextid=wwXlfr>

☆フィールドトリップって?!

現地訓練中のスケジュールの中に、4日間にわたり、「Field Trip」と書かれていました。ナイロビ市内観光に出かけるのかと思いきや、とても大きなミッションでした。その内容は、

- ① 一人でそれぞれの任地へ行く。
- ② 配属先を訪問し、あいさつ、面談をする。
- ③ アパートの候補先を訪れ、内見をする。
- ④ JICA のセキュリティ担当の方に、アパートのセキュリティを確認してもらう。
- ⑤ 任地の生活環境、医療事情や交通事情を確認する。

です。

まず、キリギティ女子更生学校のスタッフ、候補のアパートの大家さん、ホテルの予約など、今回のフィールドトリップで会う方々に連絡を取り、時間の調整をしました。私の任地キアンブ郡キリギティへは、マタツというミニバスに乗っていきます。ウーバーは自分たち以外乗客は乗らず、目的地まで連れて行ってくれますが、マタツはケニア人と一緒に乗り、降りる場所も自分で伝えなければなりません。無事に行けるのかドキドキしますが、これから住む町へ行き、一緒に活動する方々と出会えるのが楽しみです。フィールドトリップの様子は次回の通信で詳しくお伝えします！

それではまた！ Tutaonana!（トゥタオナナ!）